

アイコンの説明

	WC		景勝・史跡・文化財
	駐車場		教養施設
	バス停		レクリエーション体験
	飲食店		
	土産物店		
	休憩所		
	神社		
	寺院		
	塔		

スタンプ

各コースのゴール場所にスタンプがあります。

A

B

富岩運河をいき、中島開門を訪ねる

Bコース

コース全長約7.3km、所要時間約2時間30分

	地名・施設名		距離/km	所要時間/分	見所・周辺施設・注意事項等
S	富山駅北・ライトレール				
1	パレットとやま		1.0	9	左折する
2	富岩運河環水公園		0.5	7	
3	富岩運河橋手前		0.2	4	橋を渡らず右岸を海方向に
4	運河沿い歩行者道路				春には桜並木が美しい。一部歩道の無い車道部分有
5	中島北公園		1.1	17	
6	中島開門		0.6	10	国の重要文化財
7	国道8号		0.4	7	国道8号線沿いに右折
8	国道8号をくぐる通路		0.1	2	バッティングセンター前
9	左折し県道富山港線に		0.2	4	
10	住友運河		1.1	17	運河沿いの桜が見事
11	左折		0.1	2	
12	右折		0.7	10	運河を渡ってすぐに左折
13	馬場記念公園・旧制富山高等学校跡・ヘルン文庫		0.2	4	
G	東岩瀬駅		1.2	19	旧東岩瀬駅舎がある。休憩やトイレの設備



富山駅北
インテック本社前
奥田中学校前
下奥井
栗島
越中中島
城川原
犬島新町
蓮町
大田
東岩瀬
競輪場前
岩瀬浜

車体の色は全部で7色あります。
赤いライトレールにはある伝説が。。。
レッド・オレンジ・イエロー・イエローグリーン・
グリーン・ブルー・パープル

富山ライトレール（愛称ポートラム）

大正13年、東岩瀬町の有志らにより民間の「富岩鉄道」が開業。昭和18年、国策により国鉄に移管し、富山港線として活躍しました。
平成18年4月からは路面電車化され、富山ライトレール（愛称ポートラム）となって岩瀬浜と富山駅を結んでいます。



バイ船で栄えた岩瀬の街をめぐる

Aコース

コース全長約4.3km、所要時間約2時間

	地名・施設名		距離/km	所要時間/分	見所・周辺施設・注意事項等
S	東岩瀬駅				
1	からかさの松		0.2	3	樹齢500年以上の黒松
2	岩瀬小学校				倉庫（蔵）群の跡地
3	中央公園				
4	樹田酒造店		0.3	5	右折
5	北前船回船問屋森家		0.1	3	国指定重要文化財に指定。9:30～16:30一般公開/大人110円・小人50円
6	馬場家				日本海側有数の回船問屋
7	野村商店		0.2	4	右折
8	岩瀬運河				左折
9	大漁橋		0.5	8	岩瀬運河の第一橋。歩行者専用のアーチ型の橋
10	水辺プロムナード				散策、夕陽の眺めが心地よい
11	岩瀬浜橋		0.3	4	橋から立山連峰が一望できる
12	カナル会館				休憩、食事、買い物ができる
G	岩瀬浜駅		0.2	4	



北前船は、蝦夷地（北海道）の昆布などの海産物を日本海沿岸から瀬戸内を通じて、大阪までの沿岸各地に売りさばっていました。そして、蝦夷地から長崎より中国へ輸出されるルートに加え、薩摩（鹿児島）より琉球王国（沖縄）を介して、清国（中国）へ昆布が「昆布ロード」といって運ばれていました。

北前船と昆布ロード



◆ウォーキングの心得

- 各自が自分のペースで、自然や歴史とのふれあいを満喫しながら歩いてください。
- 交通ルールを守り、他の人や車両等の支障にならないように歩いてください。
- 歩道のあるところは必ず歩道を歩き、歩道のないところは、必ず右側を歩いてください。
- ゴミは各自必ず持ち帰ってください。
- 歩行中の喫煙はご遠慮ください。

問い合わせ先

飛越交流 ぶり・ノーベル出世街道推進協議会
住所：
電話：
http://www.buri-nobel.go.jp/

連絡先

ライトレール

富山駅北発岩瀬浜行				岩瀬浜駅発富山駅北行			
	平日	休日		平日	休日		
5	57	57		30	30		
6	35 53	35		0 49 22 39	0 32 48		
7	14 24 35	0 15 30		0 31 41 51	3 16 31		
8	5 15 25	0 15 30		1 11 21	4 16 31		
9	25 45 57	0 15 30		31 43 51	1 16 31		
10	6 14 30	0 15 30		0 14 31	1 16 31		
11	45 15 30	0 15 30		46 16 31	1 16 31		
12	0 15 30	0 15 30		1 16 31	1 16 31		
13	0 15 30	0 15 30		46 16 31	1 16 31		
14	0 15 30	0 15 30		1 16 31	1 16 31		
15	0 15 30	0 15 30		46 16 31	1 16 31		
16	0 15 30	0 15 30		1 16 31	1 16 31		
17	0 15 30	0 15 30		46 16 31	1 16 31		
18	0 15 30	0 15 30		1 16 31	1 16 31		
19	0 15 30	0 15 30		46 16 31	1 16 31		
20	0 15 45	0 15 45		16 42	16 42		
21	15 45	15 45		12 42	12 42		
22	15 45	15 45		12 42	12 42		
23	15	15					

※赤字＝越中中島止まり

岩瀬エリア

Aコース

バイ船で栄えた
岩瀬の街をめぐる

Bコース

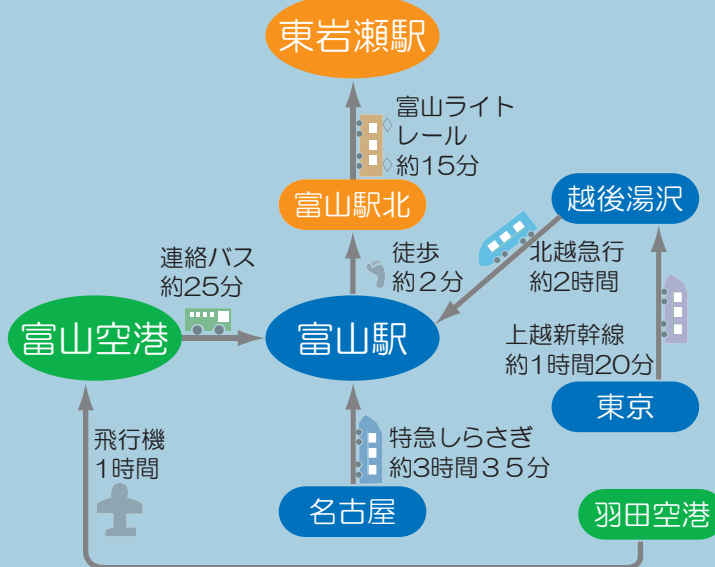
富岩運河をいき、
中島開門を訪ねる

「ぶり・ノーベル出世街道」ウォーキングマップ

ぶり・ノーベル出世街道におけるエリアの位置図



岩瀬までのアクセス



富山売薬の始まりについては正確にはわかっていませんが、最も古い富山の薬の起源を語る資料として残っているのが、松井屋源右衛門が宝暦9年（1759）に富山藩に提出した『富山反魂丹旧記』（富山市売薬資料館蔵）です。富山の薬の代名詞である反魂丹について、この由緒書には次のように記されています。

富山売薬の起源と反魂丹

「長崎生まれの備前（岡山）の医師、万代常問という人が、反魂丹の製法を所持していた。それが富山二代藩主前田正甫公（1649～1706）の耳に入り、その薬方（薬の処方や調剤方法）を取り寄せ、富山藩士の日比野小兵衛という者にそれを書き取らせ預けた。2、3年経ち、小兵衛がこの薬方を藩主に献上したいと願い出たところ、城下の薬種商人（薬方を伝えよと仰せられた。よって、松井屋源右衛門の先祖に反魂丹の薬方を伝授された。その後、この反魂丹を万人のために売り広める許可が出され、反魂丹の看板を店に掲げ富山で初めて販売し始めたので、松井屋が反魂丹の元祖である。（後略）」



現在では反魂丹は主に腹薬として販売されていますが、江戸時代の反魂丹は万能薬で、多くの薬種を含有していました。輸入ものをはじめ、23種類の薬種を含んでいたものもありました。当時、薬の製造には特に資格はなく、それぞれの薬種商や売薬商人が自ら薬を製造していました。一口に反魂丹といっても、様々な製法があり、使用する薬種や分量も違っていた、といえます。しかし、薬種の主なものは江戸や大坂から、富山藩の仲間を通して仕入れられ、藩は薬種の品質を吟味し統制していました。厳選された原料を使ったことと、効果のある良質な薬を生み出し、売薬の信用にもつながっていました。